1　2009年(平成21年)1月1日　(2001年5月22日第3種郵便物認可)　大學新聞　第58号(毎月1回1日発行)

謹賀新年

山形大学 学長
結城章夫

今人類は、深刻な地球環境問題や、エネルギーと食料の永続的な確保の問題などに直面しています。ここではまさに、サステイナビリティ（持続可能性）が問われているのです。

「知の拠点」である大学は、科学技術の力を総動員し、人文科学や社会科学の叡智も結集して、これらの問題の解決に努力していくことが求められています。

山形大学は、東北地方有数の総合大学として、教育・研究を通して、このサステイナビリティの問題に取り組んでいくつもりです。

今年も、山形大学に対し、温かいご支援をお願いいたします。

有明教育芸術短期大学 学長
小林志郎
（4月就任予定）

大学がグローバルな個性の創出をこれほど求められたことはかつてない。教育研究の規格がある。その型と機能を支えるのは大学の品性であろう。

新渡戸稲造は「（武士道は）貧困を誇る」と言ったが、教育と芸術の道も非資本主義的だ。私は世界の青年が納得する日本的清貧さと品性を秘め発信する共同体である教育研究を提示した

花田学園理事長（東京有明医療大学）
櫻井康司

新年あけましておめでとうございます。本年は花田学園にとって、新設の東京有明医療大学をスタートさせる、門出の年でございます。

本学では、2000年以上の歴史を持つ東洋医学（鍼灸・柔道整復）と、ナイチンゲールの看護思想の二つの叡智の融合により「しなやかな医療人」専門学校、日本柔道整復

日本大
大橋

20世紀は
量流通・大
テムで社会
ました。
21世紀は
面、環境問
地球規模で
新しい社会
められてい
多様な価値
家を超え
ーマンセ
現を求め
ソーシ

国際教養大学 理事長・学長
中嶋嶺雄

グローバル化が進む21世紀の知識基盤社会において、わが国の大学に最も必要なことは、大学という本来インターナショナルな場であるべき空間の多様化であり、多国籍化・多民族化でなければならない。今話題になっている留学生30万人計画も、このようなコンセプトによるべきだろう。

そのためにも、まず日本の大学がグローバルな水準にならなければならない。2008年秋にロシアで留学フェアを首尾よく成功させた「大學新聞」は、大学グローバル化への有益な情報源になることはいかにも難しいことを改めて実感していかねばならないと

白梅学園大学・同短期大学 学長
汐見稔幸

新年を迎えましたが、21世紀は人口増加や文明の過度の進行が、地球という自生的システムと共生できるのか、マクロな全

レベルで試されていながらの年のスタートです。

こうした時代の学問と教育は、マクロなレベルで人類的に問われている育を標榜しています。厳しくて鞭撻の程お願いします。

東京家政学院大学・同短期大学 学長
利谷信義

2008年の暮れは、世界的金融危機により、多くの企業が経営破たんに直面し、その解決のめども付かぬ惨状を呈したが、それを外れた人々の悲惨を招いたこと

に対し、多様なライフコースに対応できる新たなセーフティネットの構築が、それだからこそ目前の事態の収拾ばかりでなく、先を見ることも重要であろう。特に、経済成長を前提としたこれまでのセーフティネットの破

苫小
片山

今日の
苦しい時期
ですが、苦
おいては
ある「行
生」という言
と実践の
に主」と
貢献しよう
2009年は、それがで
きるかどうかの岐路にあ
ます。実

高校生のための 大学政策 ⑨

矢野　眞和
（昭和女子大学教授）

連載⑥で指摘した大学政策の三段跳びを確認しておこう。ホップは、進学の機会を平等化すること。ステップが、入学後の教育の質と学力向上。そして、ジャンプが教育の成果と雇用の関係を良好にすること。大学教育は、雇用の機会を広げ、所得や仕事の充足感を高めるものでなければならない。この三段階の問題を解決するのが大学政策の要諦だ。

→サラリーマンの学び→所得の向上。このルートの存在を「学び習慣」という言葉を用いて強調しました。ところ

（やの まさかず）工学博士。専門は高等教育政策、社会工学、教育経済学。著書に『大学改革の海図』（玉川大学出版部）など多数。

どの大学でも共通する「学び習慣」

前回は、ジャンプ段階の話を「読書経験」から紹介した。大学時代の読書経験が、職場での読書量を大きくさせ、その結果、所得も高くなる。学生時代の学び

が、わが国の教育界は、教育の成果ではなく、学歴が本人の潜在能力を示す記号になっているからだとする説があるが、学歴は、人を選抜し、ふるい分ける装置にすぎないとするシグナル理論だ。教育と経済の関係を忌み嫌う日本社会は、このシグナル理論に反論する証拠を持っていない。反論できないために、この理論を暗黙のうちに見えるのは、教育の成果ではなく、学歴が本人の潜在能力を示す記号になっているからだとする説があるが、学歴は、人を選抜し、ふるい分ける装置にすぎないとするシグナル理論だ。教育と経済の関係を忌み嫌う日本社会は、このシグナル理論に反論する証拠を持っていない。反論できないために、この理論を暗黙のうちに

教育と雇用の関係を目に見えるようにしたかったからだ。アンケート調査の項目には、読書経験だけでなく、「一般教育および専門教育にどれだけ熱心に取り組んだか（学習への熱心度）」「基礎知識・専門知識・語学力・対人関係能力・プレゼンテーション能力などがどれほど身に付いたか（知識・能力の獲得）」を組み込んだ。学習への熱心度や卒業時の知識能力の獲得が、所得に影響を与えているか、否かを検証したいと考えた。

ところが、単純な統計分析（重回帰分析）を行うと寂しい結果になる。所得に与える効果が大きいのは、年齢と学校歴（出身大学の差異）だった。学習への熱心度は、まったく影響を与えていない。卒業時の知識能力の獲得は、無関係だといえないが、それほど強い関係ではない。

シグナル理論、つまり「大学教育空洞説」が正しそうな結果になる。大学時代の勉強よりも、「会社の企業規模」や「職場における現在の知識能力の獲得」が大事だという結果にもなった。「わが社は、大学で何を学んだかを期待していない。それよりも、パイタリティーが大事だ。会社に入ってからの職場訓練によって、人を育てています」。しばしば語られる企業人事課の言葉が正しいかのような結果になる。

しかし、分析をここで終えてしまってはいけない。重回帰分析は、所得に与える直接効果を測定する方法だ。間接的な効果を無視している。複雑に影響し合った因果関係を、丁寧に追跡しなくてはいけない。その間接効果の影響を読み解く

ために、パス解析法を用いた。その図のようになる。実線は、統計的に（太い実線ほど大きい）。点線は、あるいは弱い。

職場で獲得した知識能力」が、意な効果をもたらす（現在の読書量はここで大事なのの知識能力」には響を与えている（大学時代の読同じ）。さらに大卒業時の知識能力教育・専門教育の熱心度から影ていること。学習取り組むことは、得に直接的な効果さないが、サラリなってから学習し、間接的な効もたらす。

そして、最後

学教育が本当に役立たないなら、先進諸国の大学進学率が50%を上回るまで拡大するわけがない。所得の向上が、仕事の満足度も高め、雇用の安定をもたらす。雇用の安定なくして、社会の安定はない。それが現実の社会なのだ。

私たちが5大学の卒業生調査を実施してきたのは、所得や仕事満足に与えるさまざまな要因を探り、大学教育と雇用の関係を良好にすること。大学教育は、雇用の機会を広げ、所得や仕事の充足感を高めるものでなければならない。この三段階の問題を解決するのが大学政策の要諦だ。

前回は、ジャンプ段階の話を「読書経験」から紹介した。大学時代の読書経験が、職場での読書量を大きくさせ、その結果、所得も高くなる。学生時代の学び

大學新聞

発行所
〒169-0073
東京都新宿区百人町
2丁目17番24号
大学新聞社
TEL　03-5925-1668
FAX　03-5925-1669
E-mail
info@daigakushinbun.com
郵便振替口座
00150-5-165564
(一部200円)
©大学新聞社　2009

情報を
一人ひとりの
ストーリーへ
http://licenseacademy.jp/
LICENSE
ACADEMY

第58号 INDEX

特集 5・4
国際 3
キャリア 2
経済界トップに聞く
日本アイビーエム株式会社
ロシア教授
日本の精神
私立大学協会
インタビュー